



ボランティアセンターだより

2020年10月 No. 143号



10月1日から「赤い羽根共同募金運動」がはじまります

今年も10月1日から全国一斉に「赤い羽根共同募金運動」が始まりました。最も身近でできるボランティア活動として、今年で74回目を迎えます。みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

募金いただいた内の**9割**は南あわじ市内で活用されています

集められた募金は、市内の高齢者や障がい者、子どもたちへの福祉活動、地域でさまざまな福祉課題に取り組むボランティア活動などに役立てられています。



60歳以上の方へ

高齢者元気活躍推進事業

おもいやりポイント制度登録説明会

南あわじ市では、「おもいやりポイント制度」への参加者を募集しています。

日時：10月**26**日(月)・**27**(火)

どちらも10時30分～/13時30分～

場所：ショッピングセンター・シーパ

内容：制度の説明や活動事例の紹介

興味のある方は、お気軽にご参加ください。

問 南あわじ市総務企画部市民協働課生涯活躍推進室
電話 43-5244

「福祉のおまつり」の中止について

毎年、各地区で住民同士のつながりの輪を広げることを目的に「福祉のおまつり」を実施してきました。今年度は10年目の節目を迎える年ではありましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から下記のまつりについては中止が決定いたしました。なお、「みはら福祉のつどい」は実施に向けて検討中です。決まり次第ご案内させていただきます。



【中止】・みどりふれあい福祉のつどい
・せいだんふれあい交流のつどい
・なんだん福祉まつり



令和2年度生活支援サービスの担い手養成研修 受講生募集

高齢者を支える様子を、身近なものとして学んでみませんか？研修終了後は、市内の訪問介護事業所で生活支援サービス（掃除や買い物などの家事支援）の担い手として働くことができます。

1. 日 に ち 令和2年11月**8**日(日)、**29**日(日)の2日間

2. 時 間 午前**9**時～午後**4**時

3. 場 所 南あわじ市中央公民館 講義室

4. 参 加 費 無料

5. 募集人数 先着20名

6. 申込期間 令和2年10月1日(木)～ 令和2年10月23日(金)

7. 申 込 先 社会福祉法人 南あわじ市社会福祉協議会 電話：44-3007 FAX：44-3037



エノキ・しいたけ・しめじ・マイタケ
の中で 頭が良くなるのはどれ？

ヒント：アルファベットにしてみると…

答えは裏面 →

発行 南あわじ市社会福祉協議会 ボランティアセンター
〒656-0122 南あわじ市広田広田 1064
TEL：44-3007 FAX：44-3037
MAIL：info@minamiawaji-shakyo.or.jp



「みんなちがって みんないい」

2020.10



～認め合うことの大切さ～

「認める」ってどういうこと？

「目にする、存在を確認する、受け入れる、評価する」などの意味があります。認印でもご承知の通り、「わかったよー」ってことです。

「認め合う」ってどういう感じ？

言葉を調べると「互いに違いを見て認識する。互いを評価する」ということらしいです。地域で生活する上では一方的な受け入れではなく、人と人との認め合いが必要となってきます。地域で「スゴ～イデスネ(^0^)/」って思われる事例があっても、その地域の人たちが認めていなければ、その力は発揮できないと思います。

認め合い 其の壱



八木のヤギ牧場



八木のヤギ牧場って？

昨年春、八木地区の田んぼの中にヤギ発見!! 気になる(・・?) 近くで農作業をされていたご夫婦に伺ったところ、「よう知らんわ。なんかあそこの家の人が飼ってるて聞いたで」という程度の情報。こうなったら行ってみるしかない! と田んぼに向かうと「八木のヤギ牧場」というかわいい看板を発見。姿を見つけてくださったのか、畑仕事をしておられたヤギ牧場主の堂本秀幸^{どうもとひでゆき}さんが寄ってきてくださいました。淡路の新玉ねぎに魅せられて、奥様のご実家がある淡路島に10年前に移り住まれたそうです。昨年ヤギを3頭譲り受けたのをきっかけに、ウサギ、ニワトリ、クジャク、犬を飼い、「八木のヤギ牧場」と名前を付けて地域の方に開放し、自由に見ることができるようになっています。保育所園児たちも散歩の途中に訪れたこともあるとのこと。ホテルの総料理長を経て、今はこだわりの食材を自らの手で作り、ホテルに卸しているそうです。という「スゴ～イデスネ(^0^)/」の情報を取材しました。

コロナ禍にある現在、ヤギ牧場は？

訪れた日、堂本さんは汗だくになり、草刈りをされていました。かんかん陽が照る中、ヤギたちはのんびりと草を食べていました。イチジクの実がたわわになり、ブランコができ、ちょっと休めるスペースと部屋もできて、ヤギ牧場は進化していました。自粛中も訪れる人はありました。夏休み中は子どもたちが虫を見て、生き物と触れ、旬の果物をいただき、まさに生きた勉強をしていたようです。地域の子どもの認知度も上がったようですね。時にはママ達も一緒に訪れるようです。

このヤギ牧場も、堂本さんが始められた頃は、「田んぼの中で何をしてるんや」というまわりの声や、警察に通報されたこともあったといいます。堂本さんは、ヤギ牧場のまわりの3地区(鳥井・野原・新庄)の自治会長と話す機会を持ち、空き地になっている土地にヤギを放つことの意味を伝え、理解をお願いしました。認めてもらう行動に出たわけですね。草で向こうが見えないくらいになっていた所がヤギによって見晴らしの良い土地へと変わっていきました。「草刈りをしなくてもよくなった」という声も聞こえるようになりました。

世の中は「千差万別」「十人十色」と人の気持ちも様々ですが、「**認め合うということとは、お互いに信じることだ**」と堂本さんは言われていました。疑うばかりでは信じることはできませんが、ゆっくりと互いを見つめる時間も必要のようです。



どのような場合でもそうですが、**自分にとって分からない回りの行動は恐ろしさを生みます**。それ故、噂は時には尾ひれがついたデマにつながることもあります。解りあうこと、認め合うことの重要性をつくづくと覚えました。

まさにコロナ禍の今、コロナ感染者に対して、患者とじかに接して治療にあたってくださっている医療従事者に対して、また多くの高齢者を見守ってくださっている施設の方々に対して、心無い行動が報道されているのを聞きます。**どうか今一度「『認めること』『認め合うこと』はということ？」**と身近なことから立ち止まって考えてみませんか!

秋なぞなぞの答え → エノキ (頭が「E」)